

平成27年8月27日（木）
（公財）石川県埋蔵文化財センター
担当：調査部国関係調査グループ
伊藤雅文
電話：076-229-4477

うるしまち ひとつはり
小松市漆町遺跡および一針C遺跡発掘調査概要・現地説明会開催の案内について

石川県教育委員会が公益財団法人石川県埋蔵文化財センターに委託して発掘調査を進めている、小松市漆町遺跡と一針C遺跡の調査概要について以下のとおり公表し、あわせて現地説明会を開催します。

1 所在地等

- (1) 調査地 小松市金屋町地内、一針町地内
- (2) 関係機関 国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所
- (3) 調査原因 梯川改修 築堤工事
- (4) 調査主体 石川県教育委員会
調査担当：公益財団法人石川県埋蔵文化財センター
- (5) 調査期間 平成27年4月～
- (6) 調査面積 漆町遺跡 3,460㎡
一針C遺跡 3,200㎡

2 調査の概要

(1) 漆町遺跡の概要

漆町遺跡は、小松市北部を流れる梯川中流域の左岸に位置する弥生時代～江戸時代の集落跡である。平成26年度は1,000㎡の調査を実施し、平成27年度はその東側を調査している。梯川の旧流路などの影響で、弥生時代～中世の遺構が上下2面となる3区と、1面となる4区からなる。現在、主に3区上面の調査を実施しており、鉄鍋等の鑄造に係る遺物が集中している。

漆町遺跡の調査成果

室町時代後期～江戸時代初め頃（16世紀～17世紀前半）に鑄造で鉄鍋などを作っていた集落跡を確認した。鑄物を生産した鑄造土坑（ちゅうぞうどころ）などの遺構は検出できていないが、鑄物の製造過程で出る大量の不要物などを廃棄した層（廃滓層：はいさいそう）を厚く検出した。廃滓層中から、大量の鉄滓（てっさい）とともに、素材鉄を溶かす溶解炉（ようかいろ）の一部や鞆（ふいご）の羽口（はぐち）など鑄造に関わる遺物も多く出土した。特に、廃棄された鉄鍋の鑄型がほぼ完全な形で多数出土したことは県内初であり、特筆される。また、

室町時代後期の瀬戸焼天目碗や越前焼甕、銅銭、あるいは江戸時代初めの唐津焼碗・皿なども出土した。

まとめ

室町時代後期から江戸時代初め頃に操業していた鑄造の様子を把握することができた。鑄造を生業とする鑄物師（いもじ）がこの付近に居住し「金屋（かなや）」の地名の由来となった伝承があるものの、それを証明する同時代資料は無く、大正12年（1923年）に刊行された「能美郡誌」などにその伝承が記録されたのみであった。

これら鑄物師の来歴はわからないものの、彼らは主に鉄鍋を生産していた。室町時代には、小松市大川遺跡などの町場で商業活動が活発となり、生活に必要な鉄鍋の需要が高まってきたことを背景に、梯川の水運を利用した素材や燃料の入手、商品の運搬などの利便性から、この地で鑄物生産が盛んに行われたものと想定される。

伝承でのみ語られてきた鑄物生産が、金屋町地内でかつて活発に行われていたことを初めて確認し、その伝承が歴史的事実を語っていたことが明らかになった。

コメンテーター

五十川伸矢（いそがわしんや）；京都橘大学教授

専門；鑄物生産の考古学的研究、歴史的都市京都の考古学的研究

連絡先；075-574-4174（研究室）

（2）一針C遺跡の概要

一針C遺跡は小松市北部を流れる梯川中流域の右岸に位置する弥生時代～中世の集落跡である。平成25年度は1,800㎡、平成26年度は7,600㎡の調査を実施し、平成26年12月14日に現地説明会を開催した。今年で3回目の調査である。

今年度調査では、上下2面の遺構面を確認した。弥生時代の下層と古墳時代～鎌倉・室町時代（中世）の上層で遺構を検出した範囲、奈良・平安時代（古代）以前の梯川旧流路部分の下層と旧流路埋没後の中世以降の遺構を検出した上層の範囲を確認した。

現在、上層の調査を終了し、下層の調査を実施中である。上層には古墳時代や平安時代、室町時代の遺構が密集し、土器や石器などの遺物も多く出土している。下層には弥生時代の遺構や古墳時代～平安時代にかけて埋没した梯川の旧流路を確認している。

一針C遺跡の調査成果

弥生時代：平成26年度の調査では、中期の幅4mで断面逆台形の環濠（かんごう）、中期～後期の平地式建物（へいちしきたても）周溝のほか、終末期の方形周溝墓（ほうけいしゅうこうぼ）とみられる周溝や中期～終末期の土坑墓（どこうぼ）の可

能性をもつ長方形や楕円形の土坑群などの遺構が確認された。また、弥生土器とともに石斧、勾玉、玉作り関連遺物など遺物が多量に出土した。

平成27年度の調査でも平地式建物の周溝や土坑墓などを確認し、弥生土器のほか勾玉や管玉未成品、剥片（はくへん）、石鋸（いしのこ）などの玉作り関連遺物や石斧、石包丁、石鏃などの石器が出土している。

古墳時代：前期の平地式建物周溝や土坑墓の可能性をもつ長方形や楕円形の土坑、中期～後期の溝や土坑などの遺構を確認している。遺物としては、土師器や須恵器のほか、県内での出土は珍しい碧玉で作られた容器などが出土している。

古代：平成26年度調査で検出した古墳時代～平安時代にかけて埋没した梯川旧流路の延長を確認したほか、掘立柱建物（ほったてばしらたてももの）の柱穴や井戸、土坑などの遺構を確認した。遺物では、土師器や須恵器、鉄滓などのほか、小松市南加賀窯跡群で焼かれたと考えられる平安時代の軒平瓦が柱穴から出土している。

中世：平成26年度の調査では多数の掘立柱建物や井戸、溝、土坑、竪穴状遺構、畦状遺構、柵列などを確認し、井戸からは土師器や青磁、白磁、珠洲焼、加賀焼、越前焼などの陶磁器類、宝篋印塔（ほうきょういんとう）、石臼、砥石、行火（あんか）、漆器椀、箸、曲物、木製農具、柄付き包丁、銅銭など様々な遺物が出土した。

平成27年度の調査では、掘立柱建物群、井戸、大型の竪穴状遺構群や水路状の溝を確認した。井戸からは竹製の網籠状製品のほか、土器や陶磁器、石製品、木製品、金属製品など多くの遺物が出土している。

まとめ

平成26年度に確認した弥生時代の集落域や墓域の西側に、古墳時代～中世の集落域の広がりを確認することができた。その様相や時期変遷から、弥生時代中期～古墳時代前期にかけて、一針B遺跡や漆町遺跡とともに、梯川中流域の中心となる集落としての役割を担っていた可能性が考えられる。

3 現地説明会

(1) 日 時 平成27年8月30日（日）

一針C遺跡：10時30分から（1時間程度、小雨実施）

漆町遺跡：12時から（1時間程度、小雨実施）

(2) 場 所 小松市一針C遺跡発掘調査現場（小松市一針町地内）

漆町遺跡発掘調査現場（小松市金屋町地内）

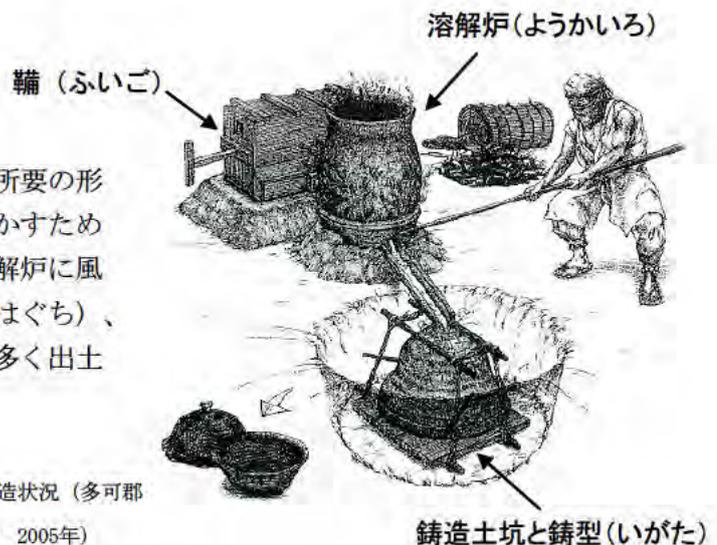
- (3) 目的 遺跡発掘調査の成果を公開する
- (4) 対象 県民、考古学に関心のある方
- (5) 内容 発掘調査の概要説明と出土品の公開
- (6) 主催 石川県教育委員会・公益財団法人石川県埋蔵文化財センター
- (7) 問合せ先 ○(公財)石川県埋蔵文化財センター 調査部 国関係調査グループ
電話 076-229-4477 (内線6540)
○石川県教育委員会事務局文化財課 埋蔵文化財グループ
電話 076-225-1842 (内線5629)

《 用語解説 》

・ 鑄造 (ちゅうぞう)

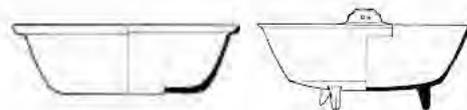
金属を溶かし、鑄型に流し込んで所要の形に造ること。漆町遺跡では、鉄を溶かすための溶解炉 (ようかいろ) の一部や溶解炉に風を送るための鞆 (ふいご) の羽口 (はぐち)、鉄鍋を作るための鑄型 (いがた) が多く出土している。

(参考図) 兵庫県牧野・町西遺跡における鍋の鑄造状況 (多可郡 中町教育委員会『牧野・町西遺跡』Ⅲ 2005年)



鍋鑄型模式図

(参考図) 萩原三雄 2014 「いまなぜ、中世の金属を論じるのか」 『考古学の中世史研究11 金属の中世—資源と流通—』



他県出土の鉄鍋

(参考図) 五十川伸矢 1992 「古代・中世の鑄鉄・鑄物」 『国立歴史民俗博物館研究報告』第46集

・ 掘立柱建物 (ほったてばしらたてもの)

地面に穴を掘りくぼめて、そのまま柱を立て、上屋をかけた建物。床が土間のままの平屋建物と、高床の建物がある。建物は柱数によって大きさが異なる。建物の周りに立てる側柱上で屋根を支持する、縄文時代以来の日本の伝統的な建築様式である。

- ・平地式建物（へいちしきたてもの）

地面を深く掘り下げて床をつくり、そこに屋根をかけた半地下式の竪穴建物と違い、床をわずかに掘り下げるか、全く掘り下げずに床をつくり、そこに屋根をかけ、周囲に排水用の溝をめぐるせた建物。弥生時代～古墳時代に多くみられ、円形のものや方形、多角形など平面形は複数種類がある。

- ・環 濠（かんごう）

弥生時代の住居群をとりまくようにめぐる堀。集落内外を区画することで、防衛的役割や集落内のまとまりを示すなどの性格が推定されている。小松駅東側周辺に広がる八日市地方遺跡や金沢市戸水B遺跡、中屋サワ遺跡などでも、弥生時代中期の環濠が確認されている。

- ・方形周溝墓（ほうけいしゅうこうぼ）

弥生時代にみられる墓の一つである。周囲に墓地を区画する溝を掘り、その土を盛り、内部に墓穴を掘って木棺で埋葬したもの。周囲にめぐらせる溝は全周するものや四隅が途切れるものなど複数種類がみられる。



漆町遺跡 3区全景（北から）



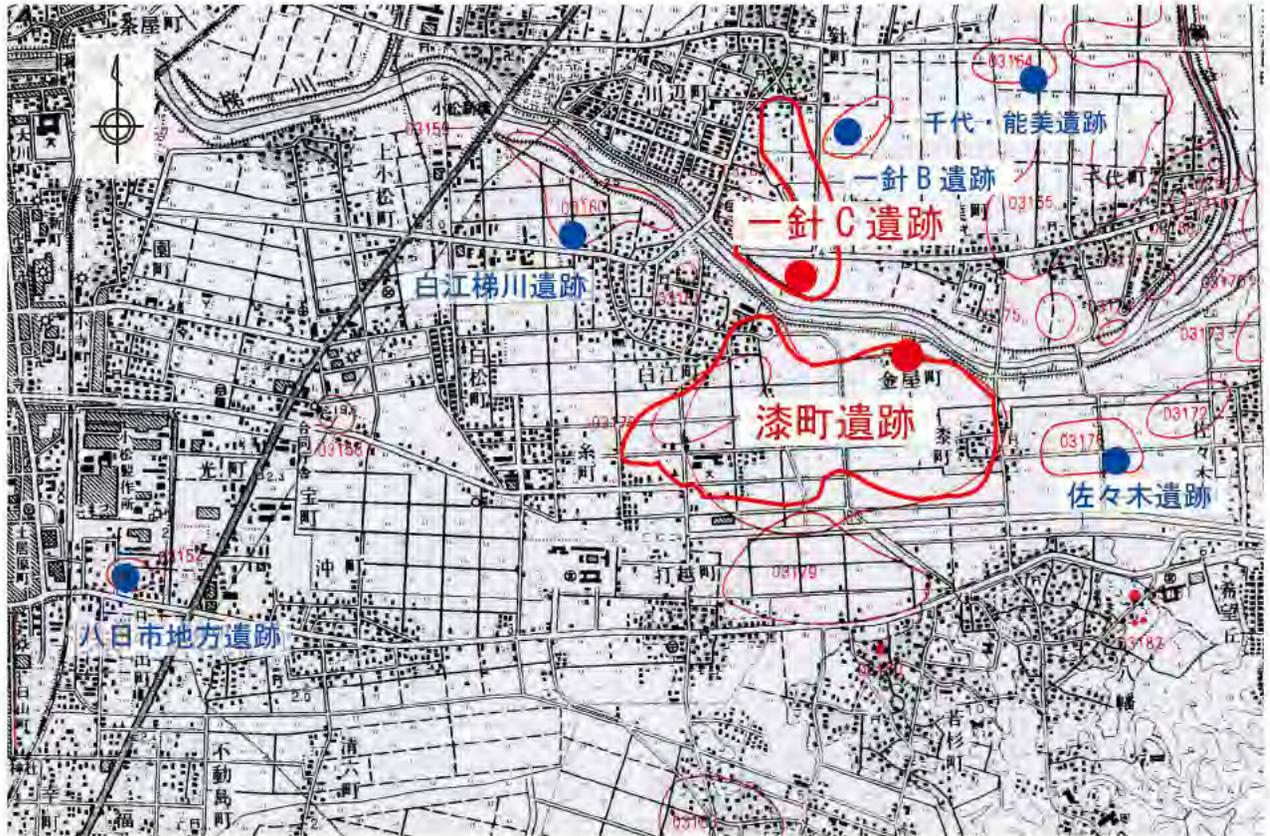
漆町遺跡 鉄鍋鑄型出土状況（南西から）



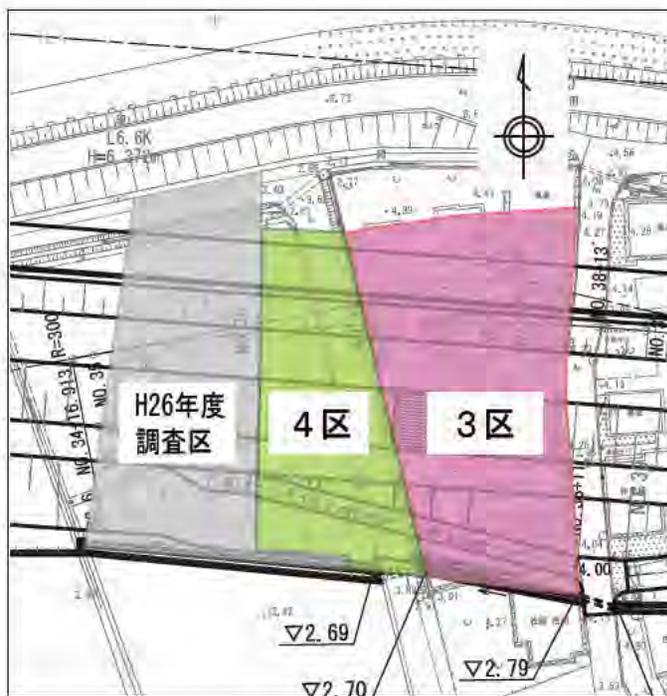
一針C遺跡 調査区全景（上層遺構）



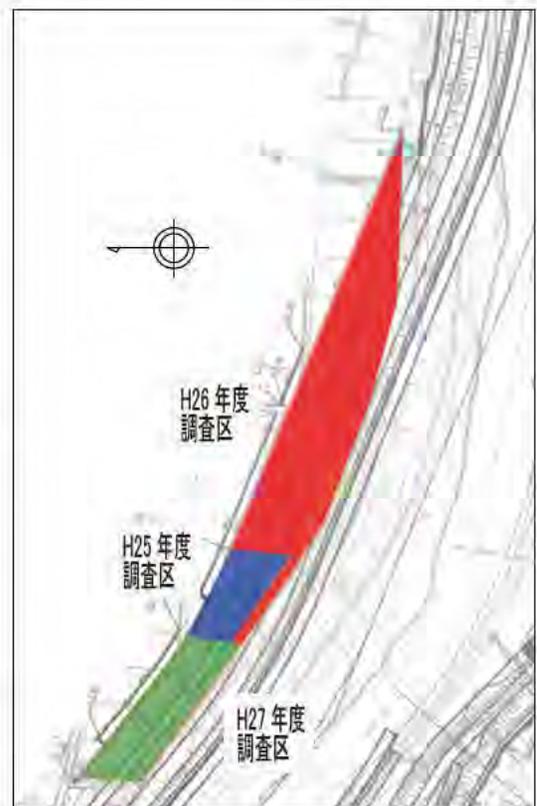
一針C遺跡 調査区全景（上層遺構）



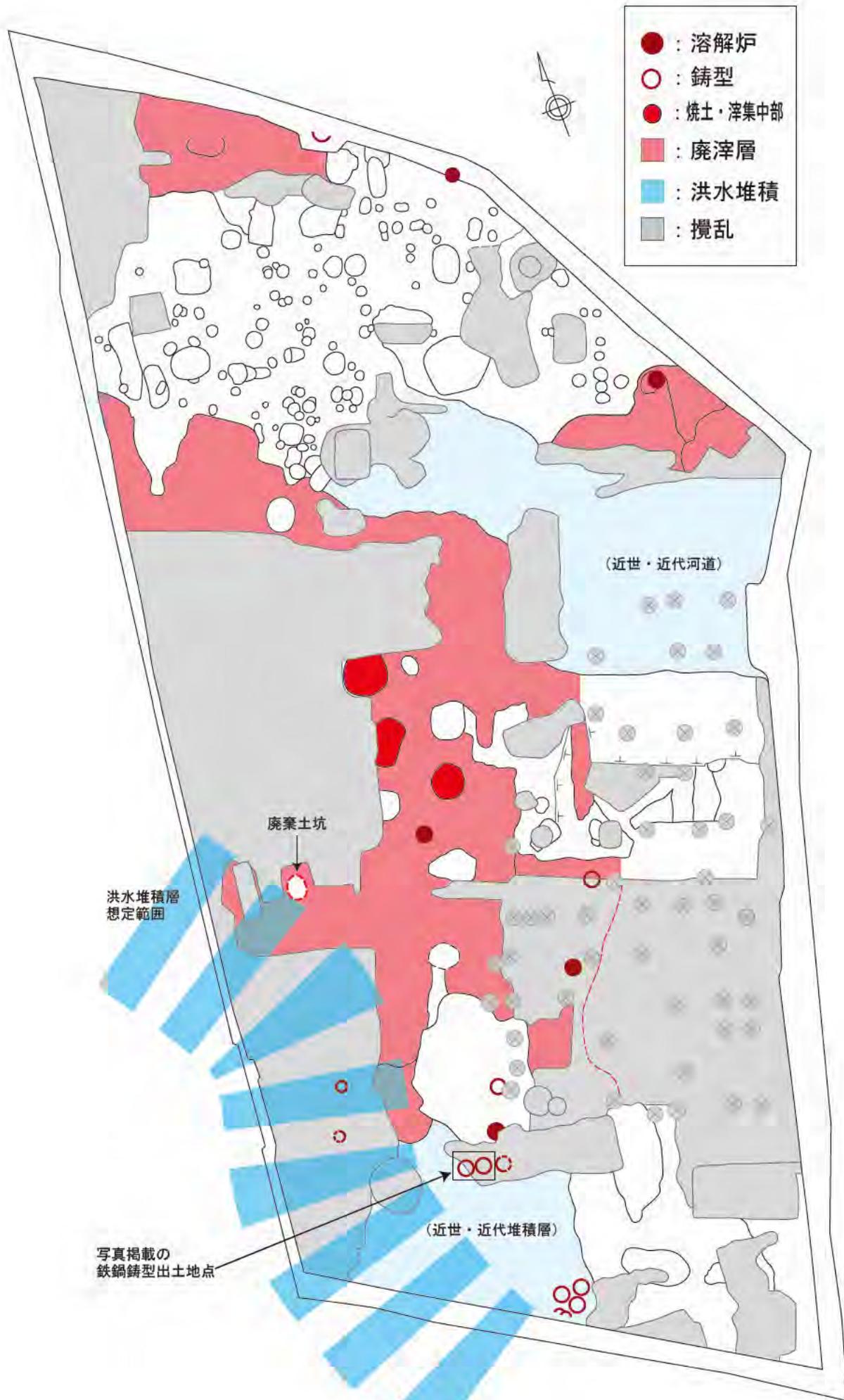
漆町遺跡と一針 C 遺跡周辺の遺跡位置図 (S=1/25,000)



漆町遺跡の調査区割図



一針 C 遺跡の調査区割図



漆町遺跡 3区遺構略図 (S=1/200)

漆町遺跡と一針 C 遺跡の位置

